

足立区環境審議会
意識啓発・行動変容専門部会
資料

目次

1 現行計画の進捗から見える課題 （第1回環境審議会資料より抜粋）	1
（1）主な指標と達成率	1
（2）指標の達成状況から見える課題	1
（3）課題解決につながる施策の方向性	2
2 足立区基本計画の理念に基づく足立区環境基本計画策定の コンセプト	3
3 子ども・若者の意見の反映	5
（1）上位計画（足立区基本計画）の理念	5
（2）意見集約の方法	5
ア 若者会議の実施	5
イ 区ホームページの意見集約コンテンツ 「きかせてみんなのいけん」の活用	7

第1回環境審議会専門部会資料（意識啓発・行動変容専門部会）

第四次足立区環境基本計画の策定に当たり、現行計画（第三次改定版）における進捗管理の中で見えた課題と現状の取り組み等を示し、対応策や方向性について当専門部会でご検討いただく。

1 現行計画の進捗から見える課題（第1回環境審議会資料より抜粋）

（1）主な指標と達成率

ア 脱炭素施策関連の主な指標と2024年度目標に対する達成率

指 標	達成率
① 助成制度による省エネ支援件数（活動指標）	184.1%
② 燃やすごみに含まれる資源化物の割合（成果指標）	113.8%
③ 再生可能エネルギーの導入による二酸化炭素排出削減効果量（成果指標）	103.8%

イ 区民の環境意識関連の主な指標と2024年度目標に対する達成率

指 標	達成率	若者
① 自然環境を大切にすることを心がける区民の割合（成果指標）	65.5%	53.8%
② 省エネルギーを心がけている区民の割合（活動指標）	75.6%	64.6%
③ 環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合（活動指標）	80.0%	37.1%

現行計画の指標となっている環境意識や行動に関する世論調査結果と推移については別冊資料集1「第三次環境基本計画改定版の指標（世論調査回答結果）の実績と推移」を参照。

（2）指標の達成状況から見える課題

脱炭素施策関連の指標では目標を達成【（1）ア】しているものの、環境意識や行動に関する指標の達成率が低い【（1）イ】

- ➡① 施策の効果が区民の意識に十分結びついていない。
- ② 特に若い世代で環境への意識が低い傾向がみられている。

(3) 課題解決につながる施策の方向性

課題

- | |
|--|
| 1 施策の効果が区民の意識に十分結びついていない
2 若い世代の環境意識が低い |
|--|



課題解決につながる施策の方向性（事務局案）

課題 1 に対する 施策の方向性	① 環境への取り組みにより+αの効果（経済的にお得、健康に良い等）を感じてもらう仕組み ➡ 環境の視点からウェルビーイングを向上 （3 ページ参照）
	② これまで環境への意識が低かった層を巻き込む仕組み ➡ 環境以外の趣味・活動と併せた事業 不特定多数の区民が集まるイベントへの出展 （3、4 ページ参照）
	③ 「やってみたい」環境活動を実現できる仕組み ➡ 勉強会実施、環境イベント主催の経費支援 専門知識を身につけ地域の環境活動のリーダーへ （3、4 ページ参照）
課題 2 に対する 施策の方向性	① 若者に届く情報発信 ➡ 若者の目に留まり、意識に残りやすい発信 （6 ページ【高校アウトリーチ】A B 参照）
	② 体験の機会を創造する仕組み ➡ 自然体験・ワークショップの実施、補助金等による団体の事業実施支援 （6 ページ【高校アウトリーチ】D【公募型】B 参照）
	③ 楽しみながら環境を学ぶ仕組み ➡ ゲーム、キャラクターを使った啓発 （6 ページ【公募型】B C 参照）
	④ 家庭で共有、習慣化できる仕組み ➡ 緑化や省エネなど、家庭生活で習慣化 親子で参加できる事業 （6 ページ【高校アウトリーチ】C【公募型】D 参照）

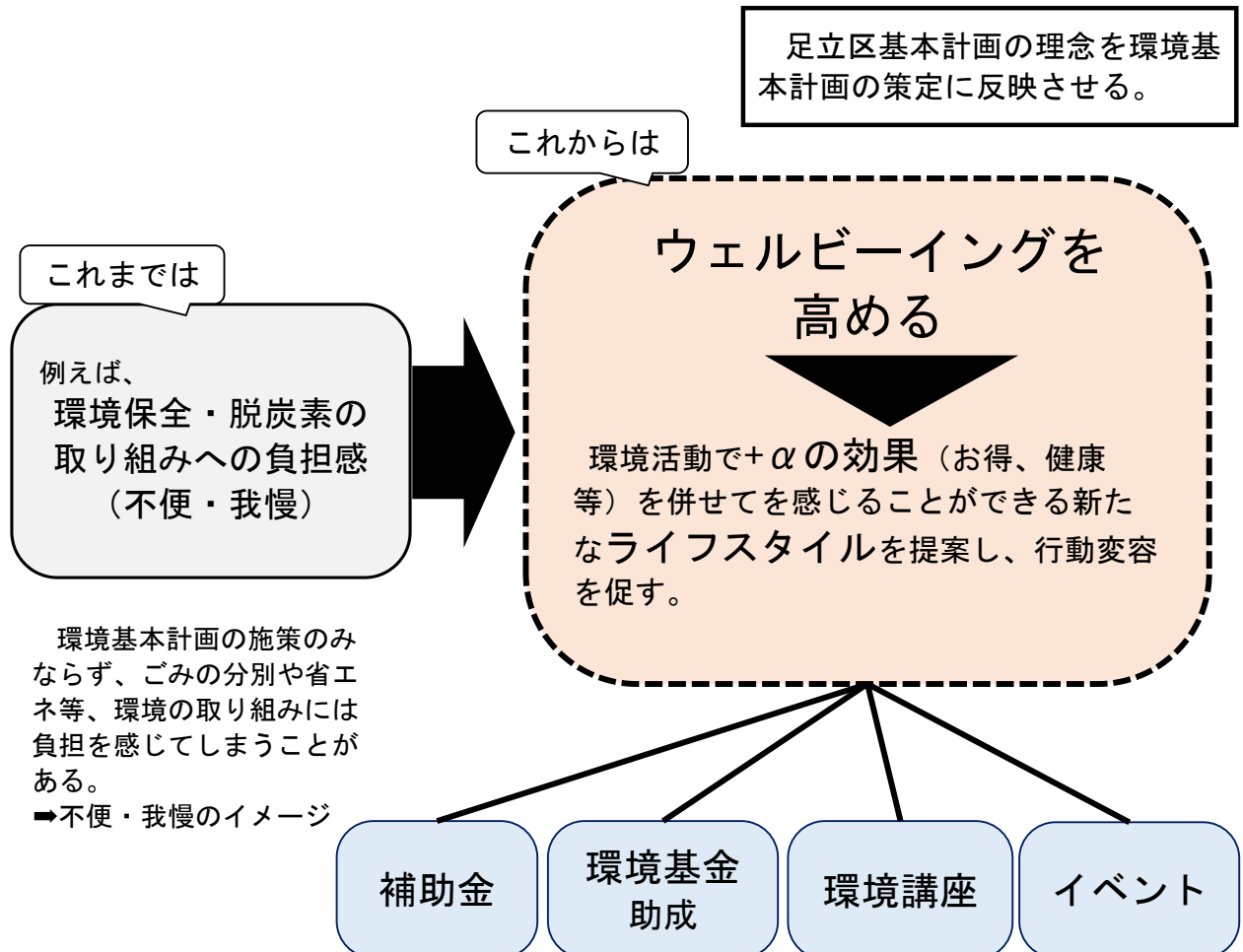
現行の啓発事業実施状況については、別冊資料集2「現行事業における啓発の考え方と事業実施状況」を参照

2 足立区基本計画の理念に基づく足立区環境基本計画策定のコンセプト

(第1回環境審議会資料より)

足立区基本計画の理念に基づく足立区環境基本計画策定のコンセプト

(第1回環境審議会資料より)



【検討点】

- ① +αの効果を感じることができる環境活動
 - ➡ 設備の導入、入れ替えによる環境効果【補助金】
健康になれる環境事業【講座・イベント】
「経済的にお得」と併せた省エネの取組発信【イベント用冊子】
気付かないうちに環境保全や省エネに取り組んでいる
ナッジ理論の活用…例) 本庁舎の階段利用の啓発(階段に健康の標語)によりエレベーター使用を減らし省エネにつながる。
若い世代には当たり前の意識…リユース品の利用や衣類の回収等。

② これまで環境の意識が低かった層を巻き込む仕組み

- ➡ 環境以外の趣味・活動を併せた事業【講座・イベント】
不特定多数の区民が集まるイベントへの出展【イベント】
無関心層の取り込みや行動変容はハードルが高い



民間ではマーケティングによりターゲットを絞った集中的な発信戦略。
若い世代には当たり前の意識…リユース品の利用や衣類の回収等。
どのように展開していくことが有効か？

③ やってみたい環境活動を実現できる仕組み

- ➡ 活動費用の助成【環境基金】
活動につながる学びの場の提供【講座・環境ゼミナール】
体験・交流の場…環境情報プラザの今後のあり方・事業展開
若者が主体となる活動、情報発信（若者から若者への発信で、これまで区
の情報が届きにくかった層への働きかけが可能となる。

(参考)

① 足立区シティプロモーション戦略計画における基本的な考え方（抜粋）

「磨く」（不満要因をなくす）

区政情報や事業成果を区民に「伝わる」よう、わかりやすく効果的に
発信する

「創る」（満足要因をつくる）

足立区が持つ今ある資源に付加価値を加えるとともに、新たな資源を
導入・創造しまちの魅力を創る

「繋ぐ」（さまざまなパートナーとつながり、効果をあげる）

官民の垣根を超え、人や組織、事業や資源など様々な魅力や力をつな
ぎ、さらなるイメージアップ戦略を展開する

「戦略的報道・広報」（すべての成果を効果的に発信する）

ターゲットを明確にした上で、広報媒体を選択し、受け手に必要な情
報を確実に届ける

② 区の情報発信ツール

あだち広報（見開き特集やコラム連載等）、公式ホームページ（アンケート調
査等にも利用可能）、公式 Facebook・X、公式 LINE（対象を絞った周知や繰り返
しの発信は不可）

3 子ども・若者の意見を反映

(1) 上位計画（足立区基本計画）の理念（足立区基本計画審議会答申より）

【子ども・若者と一緒にまちを作っていく】

子ども・若者は、一人ひとりが権利の主体であり、大人と同様に地域社会の一員である。

まちを一緒に作っていく主体として位置付け、年齢に関わらずすべての区民がそれぞれの立場から、より良いまちを実現するために区の未来を描いていく仕組みづくりを進める。

(2) 意見集約の方法

ア 若者会議の実施

(ア) 実施概要

① 高校へのアウトリーチによる若者会議の実施

日時 6月11日（水）午後3時から5時まで
会場 都立足立高等学校
対象 都立足立高等学校生徒会
参加者数 16名

② 公募による若者会議

日時 7月11日（金）午後7時から9時まで
会場 あやセンターぐるぐる
対象 足立区在住・在学・在勤・ゆかりのある若者
（15～30歳）
参加者数 11名（応募20名）

アダチ若者会議 in 2025 参加者募集
第1回

キミも。ミーティング～環境編～

令和7年 7月11日(金) 19:00～21:00
会場 あやセンターぐるぐる 東京メトロ千代田線「綾瀬駅」から徒歩約3分（徒歩4-5分）

高校生・大学生・社会人などの若者たちが集まり、足立区が抱える課題・問題をアジェンダとして「アダチ若者会議」を開催します。今回は足立区の課題を扱うための若者ならではのアイデアを募集します。みんなの思いや考えをぜひ聞かせてください。さあ、キミの力で足立区を変えていこう。

対象者 足立区在住・在学・在勤・ゆかりのある15歳から30歳の若者
定員 15名程度（申し込み多数の場合は抽選）
申込方法 上記QRコードから申込（6/25まで）
申込先 足立区未来創造室 若年者支援推進担当
03-3880-5717
環境部 環境政策課 計数推進係
03-3880-6043

足立区

若者会議（公募型）周知ポスター

(イ) 主な意見

【高校アウトリーチ】

- ① 季節感の変化（春・秋がなくなった）
- ② アルバイト先のフードロス、グッズ付食品（お菓子）のフードロス
- ③ アップサイクルアプリの活用
- ④ ショート動画（5秒で興味をひき、15秒程度の尺）の発信
- ⑤ 生徒から生徒の情報伝達の有効性
- ⑥ 埋立やりサイクルの過程が見える化（見学、動画を使った講義）

意見から見える若者の行動・情報発信の傾向

- A SNS や動画など、若者らしい情報への接し方・発信方法を重視
- B 細かな情報（量）よりもまずは印象に残ることが重要
- C 学校・家庭・生活習慣など、身近な環境からの気付きが多い
- D 自ら体験することで強く印象に残り意識の変化につながる
- E 若者⇒若者の発信の方がより共感を得やすい、影響が大きい
- F 「見える化」「体験」「わかりやすさ」「映像・視覚」「楽しみながら実践」がキーワード

意見や分析内容については別冊資料集3「あだち若者会議（高校アウトリーチ）の意見及び方策の方向性」を参照

【公募型】

- ① ゲーム形式、遊び感覚でのごみ、プラスチックを分別する
- ② 大人の社会見学（ごみ処理やりサイクルの見える化）
- ③ ショート動画作成（関心を惹く、印象に残る）
- ④ 民間企業の取り組みから環境問題や対策を知る、学ぶ
（マクドナルド、ユニクロ）
- ⑤ 環境問題を自分自身の問題として捉えてもらう周知
（マイクロプラスチックを気付かないうちにたくさん食べている）
- ⑥ 排水の浄化やりサイクルなどにはお金と時間がかかることを知ってもらう（周知・見学・動画等）

意見から見える啓発・行動変容のテーマ

- A 身近な問題、「自分ごと」として感じてもらうことで積極的に取り組むことができる。
- B みんなで取り組む、参加型の活動とする工夫が必要。
- C 楽しみながらできる活動とすることで若者を巻き込むことができる。
- D 日常生活の中でルール化する（例：学校のルールで分別していれば家でも自然に取り組むことができる）。

意見や分析内容については別冊資料集4「あだち若者会議（公募型）の意見及び方策の方向性」を参照

イ 区ホームページの意見集約コンテンツ「きかせてみんなのいけん」の活用

(ア) アンケート対象

①子ども（小、中学生）

生徒・児童用タブレットから直接回答ができ、多くの回答が望める。

②高校生・若者（概ね30歳まで）

③未就学児の保護者

(イ) 子ども向けアンケートの質問・表現の設定

1 質問・表現のレベル感

小学校低学年の児童や、中学生でも外国がルーツで日本語の理解がまだ十分でない子にも回答してもらえるようなレベルで設定。

2 専門家の視点で確認

統括指導主事のアドバイスを受け作成。

(ウ) 実施概要

アンケート実施期間 令和7年5月8日（木）から6月22日（日）まで

回答数 175件

（内訳）子ども 126件

高校生・若者 25件

未就学児の保護者 24件

(エ) 主な意見

（きかせてみんなのいけん子ども向け）

① 地球の環境について、どんなときに思い出したり考えたりしますか。

（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
学校の授業で環境のことを学んだ時	81人	64%
環境の問題を紹介したテレビ番組を観たとき	61人	48%
大雨や台風などニュースを観たり聞いたりしたとき	52人	41%
夏にとっても暑い日が続いたとき	48人	38%
環境を学ぶイベントに参加したとき	41人	33%
そのほか	14人	11%
特に考えたことは無い	9人	7%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・ 紙製品を使ったり、木の製品を使うとき
- ・ 宇宙や地球のことを話しているひとの動画を見たとき
- ・ 歩道や車道などにゴミが落ちていたとき
- ・ 自然公園や森、山や海などに自然観察をしたとき

- ② 地球の環境に問題があるといわれたとき、まず思い浮かべるのはどんなことですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
地球の気温が上がっていること	91 人	72%
海ごみやマイクロプラスチックのこと	68 人	54%
生き物が減ったり絶滅したりすること	66 人	52%
ごみを減らさないといけないこと	57 人	45%
食べ物がたくさん無駄になっていること	50 人	40%
とくに思い浮かばない	5 人	4%
そのほか	4 人	3%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・ 森林破壊
- ・ 異常気象、酸性雨、土地の砂漠化

- ③ どんなことがあれば、地球の環境を守るために、できることをしたいと思いますか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
友達や家族と一緒に楽しくやってみることができる	89 人	71%
ポイントが付いてプレゼントと交換できる	68 人	54%
自然の中でたくさん遊べるようになる	66 人	52%
いろんな生き物のことを知ることができる	59 人	47%
頑張ったことを発表したり表彰してもらえる	44 人	35%
新しい友達が増える	37 人	29%
そのほか	5 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・ プレゼントの具体的内容（賞金・グッズなど）
- ・ 色々なイベントに安くまたは無料で参加できる
- ・ 環境を知れるところのスタンプラリー

- ④ あなたが、地球環境を守るためにみんなにして欲しいこと（自由意見）

ア エコライフの実践と普及
① エコバッグで買い物をするやマイボトル（水筒）を持ち歩くは簡単にできるからみんなにしてほしい（同一意見あり）
② 電気、水、ガス、を大切に使う（同一意見あり）
③ ソーラーパネルをいっぱい作ってください
④ 二酸化炭素を多く出す車を使用するのはなるべく、避けて電車やバスを利用してほしい

イ 意識啓発と教育の重要性

- ① 関心を持つための動画、授業をしてほしい
- ② もっとテレビやネットで、環境問題を取り上げて、身近な生活の一部が環境に優しくなれるように活用できるようにしてほしい
- ③ 環境についてほんとに正しいのかを学校で講演会を開くなどして教えてほしい（例：紙ストローは本当に環境のためになっているのか、地球温暖化は二酸化炭素がすべて原因なのか）
- ④ 子どもから高齢者までが楽しめるイベントを作って沢山の人が参加してほしい
- ⑤ 学校の年間行事として地域清掃を取り入れたり木を植える場所を作って木を植えるようなプロジェクトを始めるのもいいと思う

結果の集計については別冊資料集5「きかせて！みんなのいけん(アンケート) 結果概要」参照